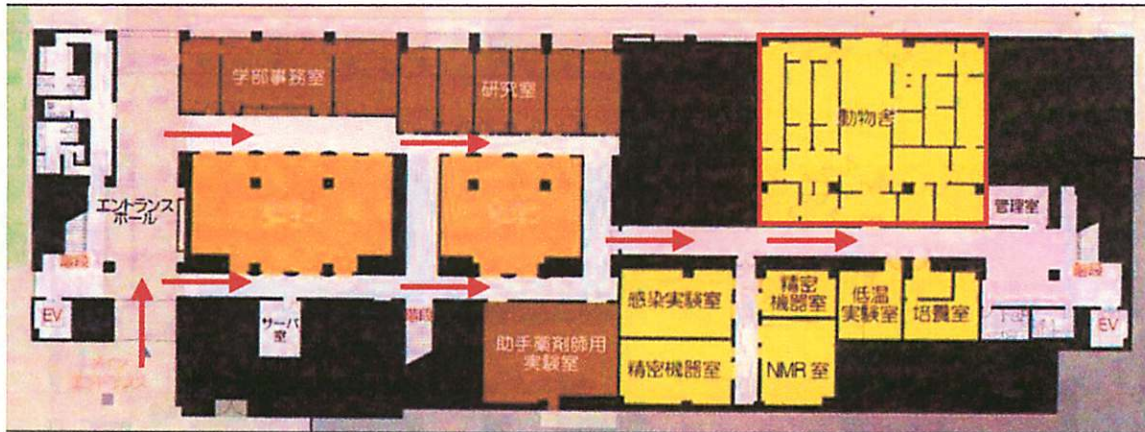


実験動物舎概要

設置場所：薬学棟B1階



飼育施設概要

【飼育エリア】

- ・ SPF (Specific Pathogen Free) エリア
- ・ 感染エリア (P2、B2レベルの実験が可能)
- ・ CV (コンベンショナル) エリア

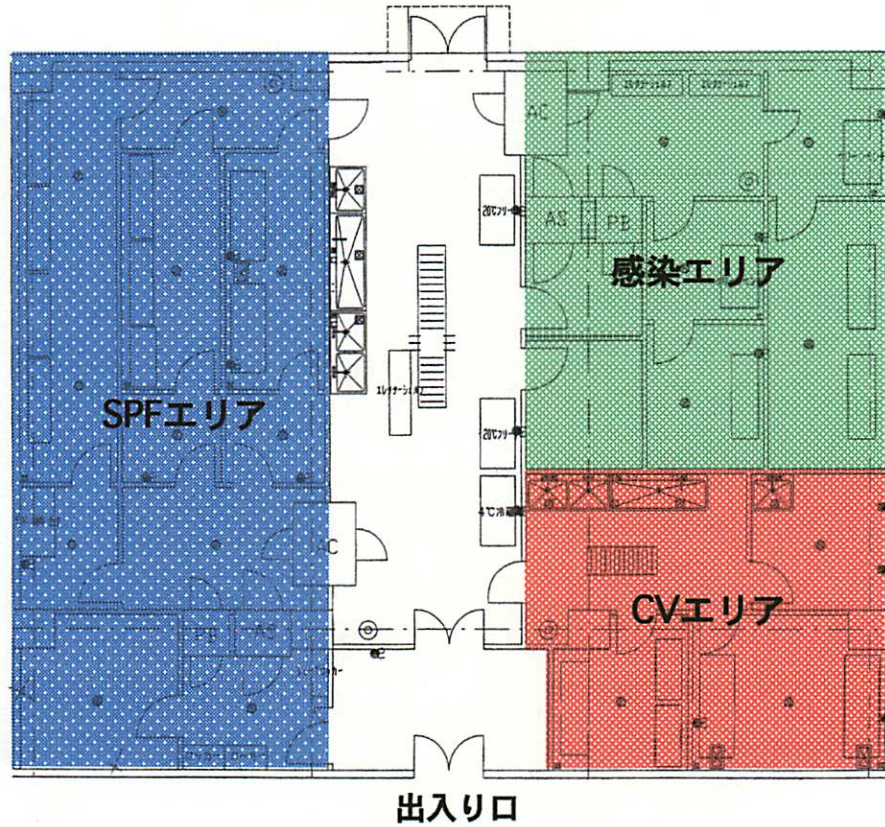
【飼育室数】

- ・ SPFエリア～マウス飼育室数：2 ラット飼育室数：1
- ・ 感染エリア～マウス飼育室数：2
- ・ CV (コンベンショナル) エリア～マウス・ラット飼育室数：1
モルモット・ウサギ飼育室数：1

【飼育可能匹数】

- ・ マウス：1950匹 (SPF：1175匹、感染：525匹、CV：250匹)
- ・ ラット：390匹 (SPF：240匹、CV：150匹)
- ・ モルモット：80匹 (CV)
- ・ ウサギ：15匹 (CV)

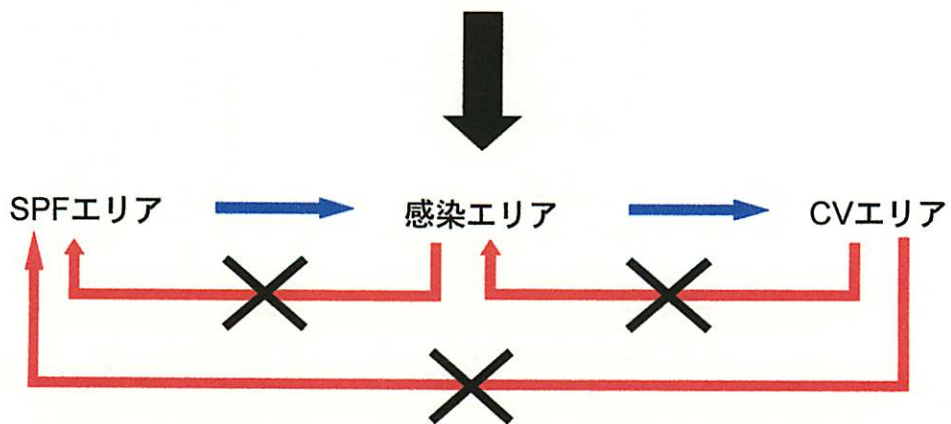
実験動物舎配置図



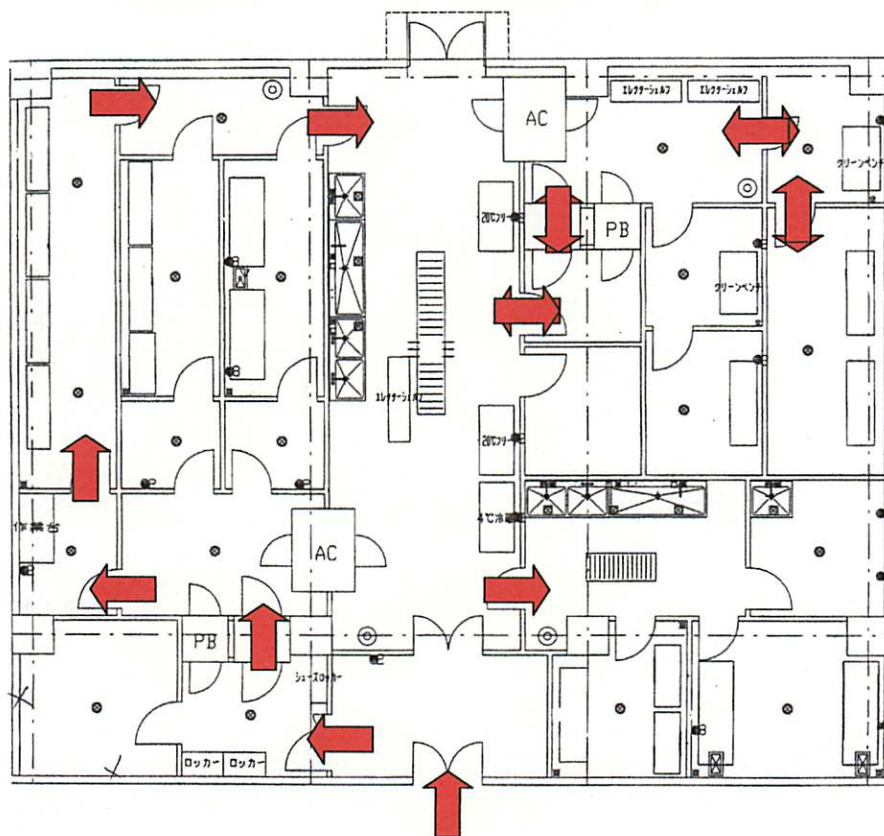
実験動物舎作業（実験）動線

動線とは

ヒト、動物、物品等の流れを示す。また動物施設の各部屋間の差圧によって生じる気流なども動線と考える。清浄区域から汚染区域への流れを維持する事がヒト又は物品を介する動物間の感染症の伝播を防ぐために重要である。



実験動物舎作業（実験）動線（例）



一方向気流ネガティブラック（ラミフローシステム）

室内の気流を飼育ラック前面から背面へ一方向に流し、室内の臭気を抑制し実験動物の飼育環境を適正に制御できるシステム。

- 1) ケージ内環境の均一化
- 2) 飼育室内の悪臭除去、アレルギー防止
- 3) 実験動物や人への感染防止
- 4) 省エネルギー



実験動物用X線CT（LATHeta）

小型動物の腹部などをX線断層撮影法により断層撮影を行うための専用装置。

- 1) 距離計測
- 2) 面積計測
- 3) 体積測定
- 4) 体脂肪測定
- 5) 内臓脂肪・皮下脂肪弁別計測
- 6) 骨計測（骨密度、骨形態）

時間経過による変化を観察する実験では実験動物の数を減らすことができる。

